

区自治協議会提案事業 事業評価書 (案)

西蒲区自治協議会(総務部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	住みよい・豊かな・活力あるまちづくり 【事業費予算 340千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 防災や教育、スポーツなど複数の分野が一堂に会するイベントを開催することで、「観光とスポーツ・レクリエーションのまち」「人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち」を目指します。</p> <p>【概要】 講演会及び会場を避難所と想定した体験を通じて、災害時における被害を最小限に抑えるため、自らできる「減災」を学んでもらう。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>事業名 「リアル避難所体験 理想と現実 防災と減災」 日時 令和7年2月16日(日)午前10時～正午 会場 西川多目的ホール 内容</p> <p>① 講演会「避難所運営のあり方」 講師：新潟大学医歯学総合研究科 先進血管病・塞栓症治療・予防講座 特任教授 榛沢和彦 氏</p> <p>② 講演会「共助による避難所運営」 講師：日本防災士会・新潟県支部 事務局長 成川一正 氏</p> <p>③ 避難所体験 指導：日本防災士会・新潟県支部 内容：シェイクアウト訓練、ブラックアウト訓練、地域で代表者を決める話し合い、避難者カードの記入・提出、物資の受け取り など</p> <p>対象 どなたでも 参加者 82名 持ち物 非常用持ち出し袋(持っている人のみ)</p> <p>【アンケート結果】 提出数：79件(提出率：96%) ・日本の防災体制に遅れがあることが分かった。 ・海外の避難所がいろんな面で確立されていることに驚きがあった。 ・避難所を自分たちで運営するのは難しいが、誰かがやらなければならないことを理解した。 ・避難所体験に参加して、日ごろから地域の人と顔を合わせておく必要があると感じた。 ・避難所では十分な物資が配られるわけではないことが理解できた。日ごろから用意しておくべきものを再確認できた。</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>【成果】 ・避難所の運営は地域の人たちで協力してやらなければならないことを伝えられた。 ・実際に照明を落とすことで、各自備えているライトがどの程度の役割を果たすのか、検証してもらうことができた。 ・初めて顔を合わせる人同士で話し合うのは少々ハードルが高かったが、普段から地域の人とかかわることの大切さを伝えることができた。 ・アンケートの結果から、講演会および避難所体験について「良かった」と答える人が7割を超えており、比較的満足度の高い事業であった。</p> <p>【課題】 ・今回体験していただいた内容を、自治会・町内会で活かしていただくはたらきかけが必要。</p>
備考	

	<p>≪「3のつく日は支え合いDAY」の啓発≫</p> <p>■実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所の広報媒体を活用し、委員アイデアによる啓発メッセージを継続掲載。 ・区役所だよりを活用し、地域のボランティア団体や地域の支え合い活動を連載掲載。
<p>事業の評価</p> <p>（地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）</p>	<p>【効果】</p> <p>①丹野智文さん講演会 & 映画上映会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症当事者である丹野さんによる講演と実話に基づく映画の鑑賞を通じて、認知症に対する新たな気づきやより良く生きるヒントを得ることができた。 ・今回の事業をきっかけに、他団体で同様の事業を実施する動きが出ている。 <p>②支え合いの意識醸成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標語募集を通じて、多くの人に「支え合いの大切さ」について考えてもらうことができた。 ・啓発メッセージや支え合い活動の紹介を通じて、身近なところでの支え合いの重要性を発信することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の支え合いや家族の介護において必要とされている若い世代への啓発を目的として、①を実施したが、40代以下の参加者は15%程度にとどまった。男性の参加者は26%と昨年度より増加したものの依然として少ない状況。 ・講師の都合などもあり、①は2月の平日夕方から実施したが、若い世代からこの日程だから参加できたという声もあった一方で、雪の影響や時間帯的に別の時期・日時を希望する声もあった。 <p>【今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合いや助け合いの意識づくりは短期間では難しいため、様々な手法で継続して働きかけていくことが必要。 ・若い世代や男性へ波及させるための工夫を、引き続き、検討する必要がある。
<p>備考</p>	

区自治協議会提案事業 事業評価書 (案)

西蒲区自治協議会(まちづくり・産業部会)

区分	内容
テーマ・事業名	地域の交流を促進し、人と人とが あ たか つ つながるまちづくり 【事業費予算 340千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 各地域で行われているイベントへの参加や協力を通じて、様々な地域への理解と交流を深められる仕組みづくりを行うことで、「人が行き交い、にぎわいと活力があふれるまち」を目指す。</p> <p>「にしかん応援隊」制度をきっかけとして参画した応援隊が地域に関わることで、地域の豊かさを知ってもらう。ボランティアから始まり、ゆくゆくは地域の担い手、後継者発掘につなげていく。 また、自分が住んでいる地域や他の地域のことを知るきっかけとしてもらう。</p> <p>【概要】 地域のイベントや祭りにおける担い手・運営スタッフの人手不足の解消と、地域内外の交流促進を目的として、「にしかん応援隊」(ボランティア制度)を創設。 また、にしかん応援隊の制度のPRと併せ、応援隊の活用先でもある各地域のイベントを各地域のコミュニティ協議会が紹介する「地域のイベント自慢大会(※)」を開催した。 ※大雪のため、内容を変更して別日に実施。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>○「にしかん応援隊」 ＜制度概要＞ 応援隊(ボランティア)の募集情報を「にしかん応援隊」LINE公式アカウント、西蒲区役所公式Facebook及び市のホームページに掲載することにより、地域のイベントをお手伝いしたい人(応援隊)と、人手不足で困っている地域団体(受入団体)とをマッチングさせる。</p> <p>＜対象＞ 【応援隊】地域内外のイベントに関わってみたい人、お手伝いしたい人(市民) 【受入団体】地域のイベントで人手不足で困っている団体(コミュニティ協議会等の地域団体) ※募集シートはコミュニティ協議会を通じて事務局へ提出。</p> <p>＜実績＞ ・11イベントにおいて制度を活用いただき、延べ45人が参加した。 ・アンケートからは「地域の人と交流ができてよかった」「これまで行ったことがなかった地域のイベントを知ることができ、行くきっかけとなった」「イベントの運営側として関わることができ、地域をより深く知ることができた」などの意見があった。 ・募集団体側からは、「人手不足で困っていたので助かった」「応援隊がいることで、スタッフの士気が上がった」といった好意的な意見の他、「初めてだったため応援隊をうまく活用できなかった」「通常よりも気をつかうなど、負担が増えた」などの意見もあった。</p> <p>○「集まれ！地域のイベント自慢大会」(大雪のため中止) 日時:令和7年2月8日(土) 午後1時～4時 会場:巻文化会館 総合司会:新潟お笑い集団NAMARA 代表 江口 歩 様 内容:江口様によるミニ講演や各地域のイベント紹介や悩みの共有、にしかん応援隊制度のPR</p> <p>→代替開催「江口歩様による地域のお悩みトークショー」 日時:令和7年3月1日(土) 午前11時15分～11時45分 会場:巻文化会館 内容:江口様とまちづくり・産業部会委員による地域の悩みの共有、にしかん応援隊制度のPR</p>

<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が応援隊をきっかけとして、普段訪れない地域のイベントを知ったり、参加することにつながった。 ・イベントの運営側として参加することで、より深くイベントや地域の魅力を知るきっかけとなった。 ・応援隊の募集を通じて、地域のイベントのPRにつながった。 ・参加者アンケートより、イベント運営側へのアドバイスがもられた。 ・地域が「手伝ってほしい」という声を上げて、受入体制を整えるという動きにつながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・徐々に制度は浸透してきているが、まだPR不足。 ・応募が少ない。募集イベントの情報が届いていない。 ・初めての試みであるため、募集側の募集シートの書き方や受入体制が不十分。 ・応援隊を活用すると、参加者側と募集側双方に楽しさやメリットが実際あるが、最初の一步のハードルが高い。 ・参加者側と募集側の双方の不安を取り除くことが必要。 ・非常にいい仕組みだが、効果が出るには時間がかかるので、長い目で見る必要がある。 <p><今後、期待される効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援隊のマッチングにより、地域の人手不足の解消。 ・応援隊員としてイベントに関わったことをきっかけとして、地域内外に対しての理解や交流が深まり、地域への愛着や相互交流が生まれる。 ・いきなり地域に入るのはハードルが高いと思うので、まずは応援隊をきっかけとしてイベントに関わっていただき、ゆくゆくは地域の担い手や後継者につながっていくとよい。 <p><今後の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度が活用されるよう、市民への周知が必要。 ⇒地域のイベントのチラシやポスターなどに積極的に応援隊の募集情報を載せてもらうよう、コミュニティ協議会へ依頼してはどうか。 ・コミュニティ協議会など、募集する側への働きかけが必要。 ⇒募集側をターゲットとして絞り、地域づくりに関するコンパクトなセミナーなどを開催し、併せて応援隊の目的や必要性、募集の仕方などを伝えてはどうか。 (例:「地域の人のかし方講座」「人とのつながり方講座」「持続的かつ効率的なイベントの開催講座」など)
<p>備考</p>	